

# 長寿化・高齢化プロジェクトワークショップ

わが国の平均寿命は20世紀後半に著しい伸長を遂げ、2014年には男性80.50年、女性86.83年と、世界有数の長寿国となった。「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」によれば、平均寿命は2060年には男性84.19年、女性90.93年（死亡中位仮定）に達すると推計されている。わが国のこうした平均寿命の伸長は、日本国内のみならず国際的にも注目され、学術的な関心が寄せられている。また、長寿化と同様、わが国の高齢化についてもその水準と進行速度は世界的に注目を浴びている。高齢化の水準を示す指標の一つである総人口に占める65歳以上人口の割合をみると、1970年に7%を超えてから急速に上昇しており、2013年の25.1%から2060年には39.9%に達すると推計（出生中位・死亡中位）されている。このように、わが国は世界の中でも最も高齢化の進展が速い国の一つである。

このような、世界にも類を見ない長寿化・高齢化の進展について、そのメカニズムと背景、また、これらが日本社会に与える影響を的確に捉えるためには、死亡データベースの構築とそれに基づいた人口学的分析を中心としつつ、社会・経済面や医学・生物学的視点などに基づく学際的アプローチが不可欠である。また、寿命に大きく影響を与え、生存のクオリティ（QOL）の大きな要素である健康、ならびに社会保障を中心とした経済社会構造に及ぼすインパクトについても分析を行う必要がある。

このような観点から、国立社会保障・人口問題研究所では、人口問題プロジェクト研究「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」（平成23～25年度）、「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」（平成26～28年度）を立ち上げ、様々な角度からの研究を行ってきたところであり、本年度はこの先行プロジェクトから通算して5年目に当たる。本ワークショップは、両プロジェクトにおけるこれまでの研究成果の報告を中心としつつ、わが国における今後の死亡・健康研究に関して幅広い観点から検討・展望を行うことを目的とするものである。

## ○ 開催日時・場所

2016年2月3日（水）13:00～17:30 国立社会保障・人口問題研究所第4・5会議室

（東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6F, <http://www.ipss.go.jp/>）

## ○ プログラム

### 開会挨拶

### イントロダクション

#### セッション1 長寿化・高齢化分析のためのデータベース開発

<討論者> 高橋重郷（明治大学）

「日本版死亡データベース（JMD）の現在と今後の展開」

石井太（国立社会保障・人口問題研究所）

「わが国における長期時系列死因別死亡統計の構築に向けて」

大津唯・是川夕・石井太（国立社会保障・人口問題研究所）

#### セッション2 健康寿命、医療と健康・長寿化

<討論者> 林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）

「疾病構造と平均受療期間の人口学的分析：1999～2011年」

別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）・高橋重郷（明治大学）

「高齢期の健康状態等の出生コホート効果・年齢効果の検討」

泉田信行（国立社会保障・人口問題研究所）

（休憩）

#### セッション3 長寿化・高齢化と年金・生命保険

<討論者> 弓場美裕（国民年金基金連合会）

"The Reform of Mutual Aid Associations in Japan: Civil Service Employee Pension Reform in 2012"

山本克也（国立社会保障・人口問題研究所）

「長寿・死亡リスクの異質性に関する研究」

井川孝之（PwC あらた監査法人）

「長寿化・高齢化と生命保険アクチュアリー」

高橋佳宏（住友生命）

### 全体討論

### 閉会挨拶